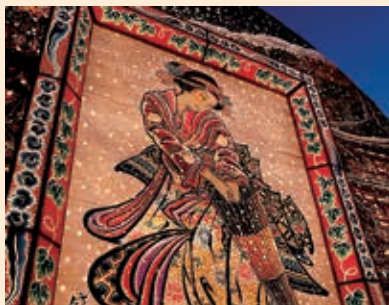


地域おこし協力隊 活動記 Vol.40



地域おこし協力隊の鹿内&北野です。弘前市長賞おめでとうございます！少しでも「相馬のねぶた」を盛り上げられればと、今年も参加させていただきました！みんなで一緒に運行した「相馬のねぶた」が、大型ねぶた2番星の大賞を獲得した瞬間、嬉しくて「うるっ」としていたのはここだけの秘密です。今回はねぶた参戦記をお届けします。

〈あかり〉

私は昨年引き続き鉦での参戦！ 今年は審査日の前日に、相馬の仲良しご家族に呼んでいただき、土手町に行ってお囃子の研究をしていました。最前列で見上げる大迫力の扇ねぶたに圧倒されると、春から小学2年生になった鉦改め笛の師匠に、「ほら、お囃子来たよ！ ちゃんと研究しろ！」と喝を入れられ大笑い、この夏1番の思い出です(笑)。家族ついでいな、そしてねぶたは素晴らしい文化だなくとしみじみ感じたねぶた祭りでした。

〈きたの〉

わは昨年に引き続き囃子方を志願。体に叩き込んだ相馬のリズムはしっかりと体に染みついているはず！と思いきや、連夜の練習では今年も叱咤の嵐…。家に帰ってからは鏡の前にて素振りの復習の日々でした。2年目の今回、少しは進歩してたでしょうか？ 今年は3歳になった我が家の「コウダイ」も隊列に参加。行進中に聞いた「そくまのねぶた、じつちやもばつちやも見てるや〜」が気に入ったのか、今でもうちで叫んでいます(笑)。

6月9日(土)の小屋かけから、7月22日(日)の紙張り、祭り本番の8月2、4、5日を経て、解体するまで約2か月。この間、地道な作業を夜な夜な積上げねぶたを仕上げた相馬ねぶた愛好会の有志達。祭り当日、会場までねぶたを運ぶ人々、運行に携わる多くの相馬人を運んでいたドライパーたち。出陣・帰陣の際に、「ほっと」する温素麺と焼きおにぎりでもなしていただいた相馬の女性部賄いボランティアチーム。ここで紹介しきれないくらい多くの献身的な支えがあつてこそ、晴れの日に相馬の皆が集い気持ちを通わせることができているんだなあ、と感じた今年のねぶた祭りでした。

一方で、「ねぶた」に興味のない方々もいることに気づき、もっと多くの相馬人がねぶた祭りを機会に心ひとつになれたらいいなあと思う。そのため自分には何ができるのか…。まずは自分のできるところから、来年こそねぶたを作り上げるところから役にたちたいと思っています。

へば